

<要 旨>

本研究では、岩手県二戸市において「住民と行政の協働」を中心的な視点の一つとしながら「人口ビジョン」と総合戦略の策定を行った。その過程では、例えば住民ワークショップや中高生との意見交換が実施されるなど、多様な世代や分野の住民と行政職員が同じ立場で地域の諸課題を共有し対話・討議するという機会が得られた。これらは新たな「協働」の形成へのステップと言え、今後の地域の持続性にとって大きな寄与となろう。

1 研究の概要（背景・目的等）

本研究では、主に次の二つの方向から進めることをねらいとした。

(1)二戸市における社会減の構造およびその対応に向けた方向性の分析

(2)地域住民の意見集約および結果の反映方法と仕組みづくりに関する検討

まず、(1)に関して、具体的には、人口減少に歯止めをかけ、地域の魅力をいっそう高めるための方途を探るべく、二戸市の人口推移のデータと産業構造の推移・これまでの関連施策・住民活動等に関して複合的に分析を行い、同市の「強み」を協働研究において析出することを目指した。

次に、(2)については、二戸市で既に地域住民の意見を集約し反映させるための調査が進行していたことから、それらの結果を上記(1)の方向性や総合戦略の全体構想の中で随時位置づけることを目的とした。かつ、必要に応じて住民への聞き取り調査等を行うことも視野に入れながら本研究を進めた。

さらに、人口ビジョンと総合戦略の策定後は、計画を実行に移す仕組みづくりが重要な鍵となるため、平成27年の秋以降も引き続き協働で検討を行うこととした。

2 研究の内容（方法・経過等）

上記のねらいのもと、本研究では二戸市の人口推移データや人口推計に基づき、自然・社会増減の構造ならびに昼間・夜間の人口動態を分析した（二戸市による）。また、以下のワークショップや検討会が出された意見を整理・分析しながら、二戸市の人口ビジョンおよび総合戦略の原案作成を進めた。なお、下記の①から④は二戸市の主催により実際の運営・実施と結果の整理等が行われており、⑤は二戸市と県立大学の合同で行った。

- ①「地区別まちづくりワークショップ」（二戸市内）
- ②「中高生が描く二戸市の未来」意見交換会
- ③各部・各種団体との意見交換（二戸市内）
- ④二戸市総合計画策定委員会ワーキンググループ「人口減少検討部会中間報告会」（二戸市役所の若手職員を中心とした検討会）
- ⑤大学生・大学院生有志（岩手県立大学総合政策

学部・研究科）による諸データ・資料の検討および二戸市担当者との意見交換

これらの経過から3点抽出し、その概要を述べる。

①「地区別まちづくりワークショップ」：二戸市内の5地区（福岡・石切所・堀野・米沢／金田一・仁左平／斗米／御返地／浄法寺）で、それぞれ3回ずつワークショップが行われた。その際の意見交換の項目は、「30年後の目指すべき将来像」「将来像を実現するための取り組み」「役割分担」「目標とする数字」である。

③「各部・各種団体との意見交換」：二戸市役所の各部および二戸市内の各種団体と、上記と同様の項目（例：「目指すべき将来像」ほか）について意見交換が行われた。実施された件数は、95である。

⑤大学生・大学院生有志による諸データ・資料の検討および二戸市担当者との意見交換：(1)のねらいに関連し、二戸市の魅力の析出を、地域「外」からの、かつ若い世代の視点で試みた。その検討をふまえ、二戸市担当者との意見交換を行った。

また、これら①～⑤以外にも、平成27年度中に二戸市総合計画審議会が計6回開催され、人口ビジョンや総合戦略の考え方等について、それぞれの分野から意見が出された。

3 これまで得られた研究の成果

前項で述べた二戸市の取り組みや各意見の内容より、何点か指摘しておきたい。

まず指摘したいのは、①「地区別まちづくりワークショップ」の意義である。こうした住民ワークショップを二戸市として開催するのは、今回が初めてであった。だが、実施後の参加者アンケートにおいても「ワークショップに参加した満足度」の質問への回答（N=75）では、「満足」が38.7%、「やや満足」が41.3%となっており、合計すれば約8割の参加者がワークショップについて「満足」に近い感想を抱いていることが分かる。さらに、「次に開催する場合参加したいと思うか」という質問（N=78）に対しては、「ぜひ参加したい」（22.2%）・「都合がつけば参加したい」（67.8%）と、次回への参加意欲も確認できたと言ってよい。

こうしたことから、今回行われたワークショップという手法は、住民にとっては自分自身の意見の表明と同

時に、他の住民と同じ土俵で意見を交わすことができる機会となり、今後の二戸市の地域づくりを進める上で一つのステップになったと考えられる。

また、このワークショップには二戸市職員や新採用職員も各班に加わり、地区住民と同じ立場で意見交換を行った。この参加の仕方また、同じ二戸市民という目線で将来の地域を考えることの促進につながると思われ、「住民と行政の協働」という意味でやはり重要であったといえよう。このスタイルからもやはり、住民が積極的に関与する戦略推進の仕組みづくり、ひいては継続的な地域づくりに関する示唆が得られると思われる。

次に、②・④・⑤の取り組みに関連したところでは、中学・高校・大学（大学院）・若手職員といった、若い世代のそれぞれの層の考え方や意見の取り入れを図っている点もまた、特に今回のテーマにとっては意義を持ったと考えられる。こうした方向性は、最終的に「基本構想」の「みんなの目標」に盛り込まれた、「次代へ紡ぐ…」あるいは「…共創^{きょうそう}で紡ぐまち」という言葉にも象徴的に表れている。とりわけ今後数十年の人口を展望する際には、若者の働き方や子育て環境に関する現実的な計画と施策が必須と言え、そうした若い世代が「我がこと」として地域の計画を知り、意識し、参画することは、今回の原案作成プロセスにおいて既に長期的な「人づくり」が行われていることを意味してもよい。

以上より、今回の人口ビジョン等の作成において、幅広い立場や多世代の住民の視角が入ることにより、より多面的でありつつ、一方で基本方針として捉える支柱が明確化されたことがうかがえる。

これらをふまえれば、今回のビジョン等の作成過程において、相互にオープンな対話が生まれ、かつ、地域住民同士、あるいは住民と行政との間で地域の諸課題が共有される機会は、今後の「協働」の地域づくりを進める上で極めて重要なステップであったと言える。住民の参加プロセスについてはこれまでも様々な研究で指摘されているが、今回のワークショップの参加者アンケート結果などからも、こうした参加・対話の機会にたいする積極的な意見や継続実施への期待が見られ、ここには新たな「協働」の土台が形成されつつある【図1】。

4 今後の具体的な展開

以上のように、平成27年度の一連の取り組みを通して、人口ビジョンと総合戦略に必要な施策のポイントや視点が、時間軸を中長期まで広げつつ多様な角度から盛り込まれたと考えられる。

しかし、人口ビジョンや総合戦略が完成した現在においては、これらの中に掲げた目標を、今後いかにして実現させていくかということが最も重要な課題となる。その具体的な仕組みづくりについては、次年度も引き続き議論と実践を要するが、平成27年度を通して同市で行われてきた取り組みの中に、既に幾つかの方向性が示されている。すなわち、「住民と行政との協

働」の具体的な仕組みである。例えばワークショップの継続的实施や、さらに派生し、住民間あるいは住民と行政との連携の機会が増すことが期待され、これは「ソーシャル・キャピタル」増の可能性とも言える。

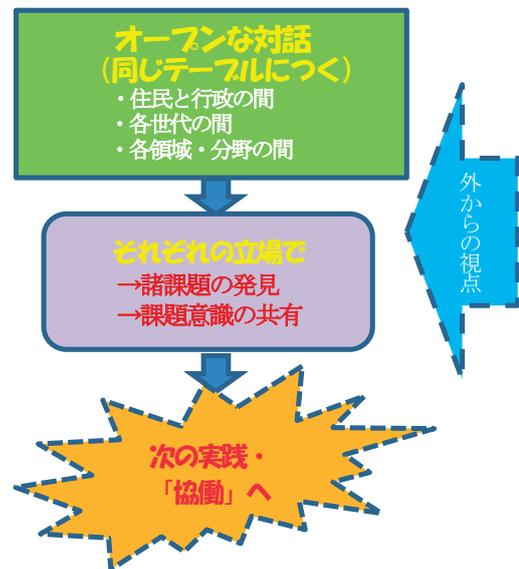


図1. 住民と行政との「協働」に向けたプロセス(概念図)

また、「1 研究の概要」で述べた(1)に関して、研究開始当初は、二戸市で進められていた調査と整合性を図りながらインフォーマント調査を行うこととしていた。しかし、平成27年度中に住民ワークショップや中高生・各種団体との意見交換など、幅広い世代や領域にわたり、二戸市によって調査が行われたことから、インフォーマント調査は次年度以降、その都度対象を絞りつつ継続的に実施することが望ましいであろう。つまり、今後、実際に人口ビジョンや総合戦略において目指されている施策を進める際、特に対象となる分野に焦点を絞った調査が想定される。

昨今の状況に鑑みれば、人口減少の食い止めや人口増は決して容易なこととは言えない。それでもなお、地域の様々な主体が諸課題や危機意識を共有し、対話と実践を重ねていくことは、今後の地域社会の持続性と絶えざる再創造に不可欠となる。

5 その他(参考文献・謝辞等)

【謝辞】

本研究を進めるにあたり、調査や意見交換等でご協力いただいた皆様にあらためて感謝申し上げます。

【参考文献】

- ・北川忠明・山田浩久編著、2013、『地方都市の持続可能な発展を目指して』山形大学出版会
- ・長瀬光市(監修・著)／縮小都市研究会(著)、2015、『地域創生への挑戦-住み続ける地域づくりの処方箋』公人の友社
- ・Putnam, R. D., 1993, *Making Democracy Work: Civic Traditions in Modern Italy*, Princeton University Press, [河田潤一訳『哲学する民主主義-伝統と改革の市民的構造』、2001、NTT出版]
- ・鈴木博・山口幹幸・川崎直宏・中川智之編著、2013、『地域再生-人口減少時代の地域まちづくり』日本評論社